

会 議 名	平成 29 年度第 3 回板橋区資源環境審議会清掃・リサイクル部会
開 催 日 時	平成 29 年 7 月 3 日（月） 10 時 00 分から 12 時 00 分まで
開 催 場 所	板橋区役所 11 階 第二委員会室
出 席 者	17 人 〔委員〕石垣委員（部会長）、平山委員（副部会長）、竹内委員、吉田委員、依田委員、皆川委員、手島委員、小泉委員、田坂委員、戸田委員、長谷川委員 〔幹事〕資源環境部長 〔事務局〕環境課長、環境戦略担当課長、清掃リサイクル課長、板橋東清掃事務所長、板橋西清掃事務所長
会議の公開（傍聴）	公開（傍聴可）
傍 聴 者 数	1 人
議 題	・板橋区一般廃棄物処理基本計画（第四次）の策定について 次期計画における課題と施策の方向性について
配 布 資 料	・事業系ごみ対策について ・適正処理の推進について ・効果的な P R ・情報発信、啓発方策について
審 議 状 況 （会議概要）	・板橋区一般廃棄物処理基本計画（第四次）の策定についての審議
所 管 課	資源環境部清掃リサイクル課計画調整係 TEL3579-2218

## 1. 開会

○新井清掃リサイクル課長：皆さん、おはようございます。定刻になりましたので、第3回清掃・リサイクル部会を開会いたします。本日は、委員の皆さま方にはご多忙のところをご出席賜りまして、誠にありがとうございます。

まず、審議に入る前に資料の確認をお願いします。本日、お席に置かせていただいております次第でございます。次第の次に座席表、事前に送付させていただいております資料1「事業系ごみ対策について」、資料2「適正処理の推進について」、資料3「効果的なPR・情報発信・啓発方策について」。以上5点です。過不足は大丈夫でしょうか。

なお、第2回部会の議事録を本日の資料と同封させていただきました。ご発言いただきました内容についてご確認していただき、訂正等がございましたら、7月7日金曜日までにご連絡をお願いします。なお、本日の会議につきましては、中尾委員と櫻井委員、ご欠席の連絡を頂いております。それでは、お願いいたします。

○石垣部会長：皆さん、おはようございます。まだ梅雨は明けないですけども、かなり気温も上がってまいりまして、今日の午後なんかかなり暑くなるということです。水分取ったりして、体調管理をお願いしたいと思います。この会議自体が非常にタイトに何回も続きますので、皆さまと元気な顔で引き続きお目にかかれるようにと思っております。

今日は、清掃リサイクル部会の第3回ということで、板橋区一般廃棄物処理基本計画第四次の策定ということで、今日は前回に引き続き、次期計画における課題と施策の中で主要課題として位置付けられているごみの減量・リサイクルの推進、その中で、特に、効果的なPR・情報・啓発方法、それから、適正処理の推進のうち、事業系ごみの対策、それから、適正処理の推進について。こういった課題についてご説明いただいて、皆さまからのご意見を賜るということになっております。

それでは、まず、事務局のほうから、「事業系ごみ対策について」のご説明を頂きたいと思います。資料の説明をよろしく願いいたします。

## 2. 議事

### (1)板橋区一般廃棄物処理基本計画（第四次）の策定について

○新井清掃リサイクル課長：それでは、事業系ごみ対策につきましてご説明申し上げます。資料1をご覧ください。

検討の視点でございます。事業系ごみは廃棄物処理法に基づきまして、事業者による自己処理が原則となっております。持込ごみはここ数年横ばい状態が続いております。事業者による減量や資源化の促進が求められるものです。集積所に排出する際の有料ごみ処理券の貼付など、事業系ごみの排出ルールの徹底が必要です。事業系ごみ減量に向けては、オフィス関係の紙類、そのほか飲食店関係の厨芥類（生ごみ）を重点的に減量・資源化していくというのが効果的と考えているものでございます。

事業系ごみの状況でございます。(1) 事業系ごみの排出量でございます。一日平均排出量 50 kg以上の事業所につきましては、廃棄物収集運搬業許可業者に委託し、清掃工場にごみを持ち込んでいます。区の収集ごみ・持込ごみ量の推移を見ますと、区収集ごみは年々減少しているんですが、持込ごみ量は、21 年度以降ほぼ横ばいです。この表で言いますと下の黒い部分、これが持込みです。上の部分につきましては、区で収集している可燃・不燃・粗大ごみは、減量してきているところです。一日平均排出量 50 kg未満の事業系ごみは、集積所に有料ごみ処理券貼付の上、家庭ごみと一緒に収集しています。27 年度の実態調査では、区の収集する可燃ごみ・不燃ごみの 22.7%が事業系ごみと推定されるものです。それが下の横棒のグラフになります。

1 枚おめくりください。事業系ごみの内訳です。事業系ごみの業種別組成内訳というところで、棒グラフが下にございます。業種により紙類・厨芥・プラスチック類・その他可燃・その他不燃ということで内訳がございます。

(3) 事業系ごみ排出基準やルール等です。板橋区の小規模事業所の排出基準は、一日平均排出量 50 kg未満の小規模事業所につきましては、有料ごみ処理券貼付の上、家庭ごみと一緒に収集しているというものです。

23 区における区収集に出す際の基準でございます。23 区内では、下の表のように、日量基準のより厳しい設定や、袋の個数で収集しているというものです。区収集ごみへの排出基準を厳しくすれば、事業所が排出する際は、許可業者が収集するものですので、コスト削減のインセンティブが働き、結果的に事業所ごみの減量につながっていくものです。区で収集するほうが若干割安というようなところがございます。区収集ごみが事業系ごみ量に左右されにくくなるメリットも期待されます。

下表でございます。板橋区と同じように日量 50 kg未満、これが板橋区のほか 14 区。40 kg未満が品川区 1 区。日量 30 kg未満が世田谷、練馬の 2 区。10 kg未満が豊島 1 区。そのほか日量 10 kg未満、これは 450で 4 袋まで、北区でございます。1350まで (4503 袋)、これが渋谷区 1 区。900までが 2 区、葛飾、足立でございます。後ろの※の 1、2、3 につきましては、次のページ、3 ページの上に内容が出てございます。

なお、27 年度事業者アンケートでは、基準の 50 kg未満を、さらに引き下げることにつきましては、「必要」が 10.1%、「やむを得ない」というのが 24.4%で、計 34.5%、こちらのほうが基準を厳しくすることにはやむを得ないというようなご意見です。逆に反対としましては、12.5%。それと一番大きいのが「わからない」ということで、43.8%ございます。こちらの円グラフがその内訳です。こちら、三次計画にも記載がございまして、今後も引き続き検討していく必要があるのかなと考えているところでございます。

それと、その下でございます。有料ごみ処理券の貼付状況です。これは前回お話しさせていただいております、20%程度が貼らずに排出しているという回答のものでございます。

1 枚おめくりください。事業用大規模建築物への排出指導ということで、延べ床面積が 1,000 m<sup>2</sup>以上の事業用大規模建築物につきましては、廃棄物管理責任者の選任、再利用計画書等の提出を義務づけまして、立入り指導やごみの減量・リサイクルについての指導助言を行っています。

(4) 排出ルール等の情報提供です。一般の家庭用に配布している「かたつむりのおやくそくハンドブック」を、全事業所に配布すると同時に、「事業系ごみ減量・リサイクルハンドブック」、この右側の挿絵でございます。こちらにも配布して、事業所に対して廃棄物管理責任者講習会を、開催しています。

ごみ情報の入手方法としまして、「ハンドブック」と回答している事業所が 12.6%というふうにとどまっている状況です。この下の棒グラフでございます。一番多いのは「集積所の掲示」、次いで「区のホームページ」、「区へ問い合わせ」と、直接ご自身で確認しているものです。そのほか「収集を委託している民間事業者から」が上位 4 位で、「ハンドブック」の活用ということでは 5 番目ということです。

(5) 東京都等の動向です。平成 29 年 10 月 1 日から、23 区統一的に事業系ごみ手数料の改定を実施する予定であります。また、東京都では、「東京都資源循環・廃棄物処理計画」に基づきまして、「事業系廃棄物のリサイクルルールづくり」による事業系ごみの減量を進めているところです。現状では検討段階ということで、具体的な内容は、まだ未定と聞いているところです。

大きな 3 番です。考えられる施策の方向性です。(1)排出指導の徹底です。ここは繰り返しのなっていますが、延べ床面積 1,000 ㎡の建物につきましては、可燃ごみ・不燃ごみ・資源の、処理、減量計画、減量目標を 5 月末までに板橋区に提出していただいております。

(2) 情報提供の充実です。先ほど申し上げました「かたつむりのおやくそくハンドブック」「事業系ごみ減量・リサイクルハンドブック」、こちらを事業所へ配布して情報提供を充実させていくものです。

(3) 排出基準の検討というところで、先ほど来申し上げています 50 kg 未満をもうちょっと厳しくするのか、検討をするものでございます。

(4) 紙類等資源分別の徹底ということで、東京都、そのほか 23 区の清掃一部事務組合と連携しながら、清掃工場に持ち込まれる資源化可能な紙類の分別徹底を、図っていく必要があると考えているところです。そのほか、今現在実施していますオフィスリサイクル、商店街リサイクルにより、紙類の資源化を引き続き実施していくものでございます。

(5) 事業系の食品ロスの削減です。①としまして、飲食店の協力を得ながら協力店制度を創設していくことなどを検討し、事業系の食品ロス削減を促進していきたいと考えているものです。食品ロスの原因ということで、食品メーカー・卸・小売店からのもの、飲食店からのもの、事業系とは外れるんですが、家庭からのものということで 3 つ大きく主体がございます。家庭からということでは、過剰除去ということで、皮をむいたりするときに厚くむくとか、そういったもので過剰な除去がございます。右側のほう、港区の協力店ポスターということで、食品ロスを減らしましょうということで、参考にお付けいたしました。

1 枚おめくりください。最後のページでございます。②としまして、広く全国で食べきり運動等を推進し、3R を推進するとともに食品ロスの削減を目的としている、自治体間のネットワーク、「全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会」へ参加しまして、食べきり運動の普及・啓発、「食べきり運動」に関する取り組みや成果の情報共有および情報発信等を行うというものです。

こちら、前回、口頭でちょっと説明させていただきましたものです。参考資料ということで、「ネットワーク協議会とは」ということで記載がございます。28年11月に発足しまして、板橋区も参加しまして、今年の5月29日現在では295自治体。特別区では、板橋区を含め14区が参加しています。活動内容は1番から5番まで記載のとおりです。

そのほか、板橋区における取り組みとしましては、今年の1月1日号『いたばし町連』、こちらのほうの見開きをちょっと使いまして、「宴会五箇条」、「30・10運動」等を紹介させていただいているところでございます。説明は以上です。

○石垣部会長：ご説明ありがとうございました。事業系のごみについては、事業者の立場、事業者ではない区民の立場、そして、それを集めて処理する立場と色々な立場から、意見や対策等、いろいろなご意見あるかと思います。今の説明、この資料について皆さまからのご意見を伺いたいと思います。挙手にてお願いいたします。

○小泉委員：ちょっと思ったのは、説明の中に持込ごみとシールごみの話が混在してるような気がするんです。これはシールだけど、これは持込ごみの話という部分があって、食品ロスやシールで出してる業者なんていうのは到底やっていけない話だと思うんですよ。そのへんの整理がちょっと違うのかなっていう部分があるのと、基準を50 kg以下にした場合、中小事業者の方はかなりきついかなと。産業廃棄物も出てくると、値段が倍以上に上がってしまう部分で、区の収集に出すごみについてはこのままのほうがいいのかと思う。

事業系ごみの持込ごみは、排出者側が処理費と一緒にぐらゐの金額でごみを出して、処理費を割ってるようなテナントなんかもあるようです。ごみ減量とは違うかもしれないけど、不法投棄につながる部分があると思います。

豊島区が、10 kg未満になってるのは、豊島区の特有の事情もあると思うんです。ほかの区が、豊島区並みに厳しくしていない理由もあると思う。豊島区の数字だけ見てしまうと、「厳しくやっている区もある」となるかもしれないが、それだけではないと思う。回収する業者のほうからすると、もう少量は困るっていうのが事実なんですよ。これ以上、小規模事業者からの収集が増えると、回収効率が落ちてくる。また、実際に板橋清掃工場に入ってる搬入量っていうのがあるのかもしれないんですけど、実態は、板橋区内のごみって板橋区内に入っていないのが現状だと思うんです。そういう中で高速道路を使って行くのは、効率的ではない。ある意味で地球環境にも良くないと思った。

○石垣部会長：ご意見というところもあるとは思いますが、もしご回答できることがあればお願いします。

○新井清掃リサイクル課長：前段の持込ごみとシールごみの関係の認識というか、そのこの部分の整理が必要ということでございます。私どもも、きちんと整理して、持込ごみの部分のお話と、シールを貼って出すっていう部分の話ということではきちんと分けていきたいと思います。

後段の部分につきましては、今後どうしていくかというところで、またあらためてきちんと

ご説明はさせていただきたいというふうには思っております。

頂きましたご意見等につきましては、参考にさせていただきたいと思います。

○小泉委員：最初の部分についてなんですけど、申し訳ないんですが、シールごみの基準である 50 kg未満を厳しくすれば搬入量が安定するみたいなことが書いてあるんですけど、絶対そんなことないと思うんです。やっぱり委託で出してる事業者のほうが景気によってかなり左右するんであって、そういう切り口がちょっと違うんじゃないのかなって。

○石垣部会長：このへんは戦略としてどうなんですかね。一方で、シールを貼らずに排出してる事業者さんが 20%程度あるみたいな調査もあったりして、なかなか削減のインセンティブが働かないみたいなところを、ちょっと裾切りのところを 50 kg未満を下げるぞっていう姿勢を見せることで、事業者さんには真剣に排出量を減らそうというインセンティブを働かせたいというところもあるのかなという気がするんですけど、でも、私も小泉委員と同じように、戦略としてはあるのかもしれないですけども、対策自体がほんとに合ってるのかなっていうところは、方向性として合ってるのかなっていうのは少し心配なところがあります。

○小泉委員：シールの指導をするならシールの指導とか、大手を指導するなら指導するとかやっていかないと、中小事業者は厳しくいじめられるっていう言い方は変ですけど、一番しわ寄せが来るので、そのへんは配慮していただきたい部分がある。

○新井清掃リサイクル課長：一般家庭から出るようなごみも、減りつつございます。事業系のほうも減らしていきたいというところが主な目的ということになっておりますので、その表現ということで、今頂いたようなことでの、50 kg未満を下げればそれでいいのかというお話ということでは、表現等も考えていきたいと思うところです。

○吉田委員：私の所は工場なので、工場の中で出る一般ごみは許可業者に引き取ってもらう。それから、廃プラもそうです。事務所のごみがあるんですけども、事務所のごみは、紙類とか、あと厨房のごみとか、そっちは一緒くたにして、週 2 回収に来てもらう。袋で回収するやつにシールを貼って出すんですけども、そこで見てると、紙系が結構多いんですけど、シュレッダーにかけるものとかけないものっていうのがあるんですけども、それも厨芥と一緒に出すかたちにしてるんです。もしリサイクルを考えるのであれば、シュレッダー、それから紙類を一つの袋にして入れ、それは別回収にして出せば、もっとリサイクル率が上がるんじゃないかと思うんですけど。生ごみだけを入れたほうが分別は良くなるんじゃないかと思うんです。だから、あとは、回収する週 2 回の中で紙類だけを集めるかたち、それから、生ごみだけを集めるっていうかたちを考えたほうがリサイクルは上がるんじゃないかと思うんですけども。

○新井清掃リサイクル課長：紙類関係につきましてはオフィスリサイクルということで、袋なり、ひもを別途購入していただきますと、その購入経費で回収のほうは行っているところでござい

ます。ただ、シュレッダーは、一次的に工程は終わっているのではないかというお話も前回ございましたが、残念なことに、今現在は、シュレッダーの部分につきましては、回収ということでは今のところできていない状況です。ですから、オフィスリサイクル等ももっともっと周知していくようにしていきたいと思っています。

なお、厨芥のほうにつきましては、リサイクルの内容のところには入っておりませんので、それは通常のごみということで、可燃ごみでお出しいただくようなかたちになるかと思います。

○依田委員：私は商店街のほうですけど、商店街は、飲食店とか大きな八百屋さんなんかは、全部自分の所で許可業者を頼んでごみは処理しておりますので、商店街はそういう所が多いです。

○石垣部会長：依田さんから今お話あったんですが、そうすると、商店街で、ごみを出す側からすると、今のところ大きな問題とか不安というのは。

○依田委員：大きな八百屋さんがあるんですけど、そういう所は段ボールでも何でも、全部そのお店で別の業者をお願いしてやってるわけなんですね。飲食店なんかも、時々ごみの日じゃなくて出てるのがあるんで、聞いてみると、そういうごみはそこのお店でほかの業者に頼んでるということのようです。

○石垣部会長：うまくいってるということですか。

○依田委員：どうなのでしょうね。回収なさる方がどういうふうに思ってるかはわかりませんが、私なんかは、今、うちの中を片付けてますので、ちょっとごみを出させていただいちゃってるんですけど、一般的にはそういう業者さん、生ごみなんかはそうやってほかの業者さんをお願いしてやってるみたいです。全部が全部とはいかないでしょうけど、小さいお店はきっと違うと思いますけど、そういう所が結構見られます。

○小泉委員：逆に言ったら、小さいお店しか残っていないというのが実態で、そういう人たちは、正直言って、アンケートで「わからない」というのが本当の声なんだと思うんです。声なき声っていう部分じゃないけど、やっぱり大手の部分は役所の指導が入って、ある程度もう整理がついて委託しているというのが実状だと思うんです。そういう小さなお店が街角にシールで出しているのが実状であって、そういう人たちはほんとに、シールのままでいいのか、何でいいのかというのはわからないというのが実態なのかなと思うんです。

○新井清掃リサイクル課長：今お話しいただきました「商店街の関係でも」というようなお話の中に、段ボールというお話もございました。紙類ということでは普通のオフィスの、通常のコピー用紙、それのほかに段ボールもオフィスリサイクルということで収集関係を行っております。そうしますと、シールを貼ってお出しいただくよりは、ひもであるとか、そういうのを購入していただければオフィスリサイクルのほうで回収させていただいております。若干割

安というようなことになっておりますので、オフィスリサイクルのほうも案内等は皆さま方に周知していききたいなというふうに思うところです。

○長谷川委員：これは質問というよりは確認ということですが、資料 1 のほうの 4 ページ、(5) で東京都等の動向ということがあって、2 行目の所に、「また、東京都では、計画に基づき、事業系廃棄物のリサイクルルールづくりによる事業系ごみの減量を進めていくことにしています」という記載がございまして、これについて質問という意味じゃなくて確認なんですけども、既にご存じだと思うんですけど、事業所からは区市町村が所管する事業系一般廃棄物と呼ばれるものと都道府県が所管する産業廃棄物、両方が排出されるということもあって、都内の区市町村と東京都の共同検討会というのを設置して、区市町村の皆さんと議論をさせていただいて、事業系廃棄物、特にリサイクルルールをどういうふうにしていくかということをしています。

東京都のほうでリサイクルルールづくりをしているというような記載に一瞬見えちゃうんですけども、ここ、皆さんと議論させていただきながらやっていくということでございますので、そういう意味で、そういう検討の中身なんかも生かしながら計画づくりを進めていただければなということで発言させていただきました。

○新井清掃リサイクル課長：ありがとうございます。「基づき」と、「リサイクルルールづくり」の間に「区市町村等も検討を重ねながら」というような表現が必要だと思います。言葉が足りず申し訳ございませんでした。

○手島委員：4 ページの「ごみ情報の入手方法」の中で「かたつむりのおやくそくハンドブック」、これが 12.6%って非常に低いんですね。これはどういうふうにお考えでいらっしゃいますか。

○新井清掃リサイクル課長：説明の中でも、順番が 5 番目というようにお話をさせていただいているところです。やはり、「かたつむりのおやくそくハンドブック」ということでは、一般家庭系のごみも含めまして記載等もございます。その他いろいろなごみの関係の内容を網羅しているものですので、もっともっと普及させなければいけないのかなというふうに思っているところです。

家庭系の中でお話をさせていただいたんですが、全戸配布ということではもう 5 年前に行って、残りにつきましては、転入者を中心にお渡ししていると。機会があるごとに配布しているというところです。それにしましても、かなり低い数値というふうに認識しておりますので、これらも含めて 1,000 ㎡以上の管理責任者、選任と同時に研修等もございます。そういった際にはきちんとお渡ししまして、活用してもらえるように周知・徹底していきたいと思っております。

○石垣部会長：関連してなんですけれども、④の「集積所の掲示」から情報を入手するという方が 33.6%とこの中で一番多くなってるんですけども、集積所に事業者向けのそういう排出の情報というのは詳しく出てるんですか。要は、ここを見て間違った情報で事業者さんが出して



いたら何もならないんじゃないですか。

○新井清掃リサイクル課長：事業者の方に特化したような表示はございません。ただ、可燃・不燃の日ですとか、資源ということでは、その曜日関係が記載しているということでございます。

○竹内委員：今、部会長の問いかけと同じようなところなんですけど、先日、私の所の町会で、すごく生ごみが散乱してまして、カラスがつついて生ごみが道路いっぱい散乱してましたので、早速、町会の環境のほうの部長に行ってもらったんですけども、小さい商店の居酒屋さんなんですけども、一般の処理業者にごみの収集を頼んでいるので、普段、生ごみを出すのと違う日だったんですが、なぜそうなったかという、風でもってまたま容器が倒れちゃって、生ごみのふたが開いちゃったところでカラスがいたずらしちゃったということで、そういう面では、その商店の方は、一般の専門の処理業者に頼むことを知ってるわけですよね。だから、そういう事件が起きたと思うんですけども、やはり、先ほど部会長がおっしゃったように周知・徹底、実際にこういう処理業者がいるんだよということをはっきりと周知・徹底すれば、もう少しいい方向に進むんじゃないかなというふうに感じました。

3 ページの「今後の方向性として、日量 50 kg未満の基準の引き下げについて」というアンケートを出していても、「無回答」と「わからない」という。これは、足すと 53.4%になるんですね。この結果をもう少したたいて、皆さんで話し合ったほうがいいんじゃないかなと感じましたので、よろしくお願いいたします。

○新井清掃リサイクル課長：ありがとうございます。先ほど、小泉委員のほうからもお話しいただいております。大きい所につきましては、指導ですとか、入っていくわけですが、それ以外の部分という所では、まだまだ周知・徹底されてないのかなというところがございます。皆さま方には、今後どのようにやっていけばいいのかというのも含めまして検討していきたいなと思ってるところです。

また、このあとにも出てくるわけですが、周知の方法についても、いろいろ私どものほうでも考えているところもございます。ご意見等頂ければというふうに思ってるところでございます。

○石垣部会長：「わからない」は私もちょっと気になって、いわゆる、興味がないとか、どうでもいいと思ってるような事業者かもしれないですし、もしかしたら、ほんとに何を聞かれてるのかわからない。そういう事業者が事業系ごみをどういうふうに出さなきゃいけないとか、あまり考えたこともない。だからわからない。それによって、周知といってもやり方が違うと思うんです。

ほんとに、不幸にして、そういうことを全然今まで知る機会がなかったという方に対しては、そういう最初の情報をきちっと与えるということは、もしかしたら非常に有効かもしれないですし、もう少し分析をされて適切な対策を取ってほしい。

やはり、小泉委員おっしゃいましたけれども、中小規模事業者の方だけではないと思います

し、特に事業者の方に過度に厳しい、環境上、廃棄物の処理という観点からあまりにも厳しいことをしてしまって、事業そのものの活力がそがれてしまうようでは何にもならないと思いますので、合理的な方策で対策を考えていただければいいかなと思っています。そこはまた、次回の中間まとめのときに反映していただければいいかなと思っています。

それでは、今日は課題が3つありますので、次の課題に移りたいと思います。資料2を用意していただいておりますが、「適正処理の推進について」ということで、ご説明をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○新井清掃リサイクル課長：それでは、適正処理の推進についてでございます。資料の2をご覧ください。1「ごみの中間処理・最終処分」という所です。(1)検討の視点としましては、中間処理を実施する「東京二十三区清掃一部事務組合」以降「一組」と略させていただきます。最終処分場を管理する東京都と連携しまして、ごみの中間処理・最終処分体制を安定的に維持していく、それとともに災害廃棄物対策も進めていくと、これが必要であるというものでございます。

一組の実施する不燃ごみの中間処理とは別に、板橋区におきましては、平成28年度は30%程度、今年度平成29年度より不燃ごみの全量を選別・資源化施設へ搬入しまして、不燃ごみの資源化事業を実施しているものです。

下表参照ということで、平成28年度不燃ごみ資源化実績というところでございます。全体の不燃ごみの収集量としましては3,253.13トン、その中で資源化量ということで798.46トン、資源化割合ということでは24.54%となっております。これは全体の不燃ごみの収集量に対してのものでございまして、実際、30%程度を資源化施設に持ち込んだと。こちらの量が853.09トン。こちらの持込み量に対しまして、資源化された量が、ここに記載のとおり798.46トンとなっておりますので、実際の持ち込んだものに対する資源化量としましては、約93.6%が資源化できました。

(2)考えられる施策の方向性です。①東京都、一組との連携のもとに安定的な中間処理・最終処分体制を維持していく。②としまして、国の災害廃棄物対策指針、それと、現在策定中の東京都の災害廃棄物処理計画、こちらの策定を踏まえまして、区としての災害廃棄物処理計画を策定していくというものです。③としましては、平成28年度から開始した不燃ごみの資源化事業を引き続き推進していくというものです。

2番としまして、水銀など有害物の適正処理でございます。検討の視点としまして、平成28年2月の水俣条約が締結されて、水銀混入ごみの清掃工場への搬入により焼却炉が停止する事態がたびたび起こっているというところは、これらを踏まえまして、水銀をはじめとする有害物や適正処理困難物のごみへの混入排除を進めることが求められるというものです。

実は、平成29年5月12日に板橋清掃工場で、自己規制値ということで、0.05 mg/m<sup>3</sup> N という数値がございまして、こちらを超える量としまして、0.055 mg/m<sup>3</sup> N というものが検知されて、板橋清掃工場の1号炉を停止したものでございます。フィルター清掃を実施しまして、5月24日に再稼働しているものでございます。

(2)水銀含有物に関する分別状況という所で、板橋区におきましては、水銀を含む蛍光管、

体温計につきましては不燃ごみで排出していただくというものになっております。収集後につきましては、不燃ごみ資源化事業に搬入しています。また、ボタン電池につきましては、買ったお店への返却。ニカド電池、ニッケル水素電池、リチウムイオン電池など小型の充電式電池につきましては「小型充電式電池リサイクル協力店」のリサイクル BOX への排出を呼びかけているものです。

そのほか、他区におきましては、水銀含有物の回収方法につきまして以下の4点のような例がございます。新宿・中野のほうでは、水銀含有物は不燃ごみの日に別の袋に入れて排出する。品川区では、資源の日に集積所回収を行う。中央・北区・世田谷区などでは公共施設などで拠点回収を行う。練馬区では、水銀体温計・水銀血圧計は不燃の日に手渡し、もしくは、清掃事務所に連絡するというものがございます。

考えられる施策の方向性としましては、水銀含有物につきましては不燃のごみの日に別袋で出すなどしまして、選別処理の際に選別しやすくし、ごみへの混入を防ぐというものが必要なと考えているところです。説明は以上です。

○石垣部会長：ご説明、ありがとうございます。「適正処理の推進について」という所につきまして、皆さまからのご意見、ご質問等ございましたら、よろしくお願いいたします。

○長谷川委員：何点かあるんですが、非常に細かい点ですみません。まず、1つ目は、先ほど災害廃棄物処理計画についての言及があって、東京都においては策定中というようなご発言があったんですけども、6月15日ですかね、一応策定したということで公表してございますので、ご参考になさりながら計画の策定を進めていただければと思います。

それから、あと2点ほどあるんですが、資料2の2番、水銀など有害物の適正処理です。これの(1)の所について、これ東京都の話になるんですけども、東京都の埋め立て処分場では、廃蛍光管等の埋め立てについては、平成31年、2019年度末をもって終了という方針がございます。既にご存じかと思いますが。それがございますので、考えられる施策の方向性などに、進めていただいている方向性についても、そのスケジュール、こちらを念頭に置きながら施策の策定というのを進めていただきたいなと思ってございます。

それから、もう一点だけ。これはものすごく細かい話なんですけども、(2)の所にニカド電池とかニッケル水素電池という言葉があるんですが、2番は水銀の有害物質廃棄適正処理というふうにも読めますので、そういう意味からすると、ボタン型電池の中でニカド電池、ニッケル水素、リチウムイオンというのがあると、この電池にも水銀が入っているようにちょっと読めちゃうかなと思って。これはあくまで議論ペーパーですので、そういう意味じゃないと、この場で誤解のないようにすればいいかなと思って、一言だけ申し上げさせていただきました。

○新井清掃リサイクル課長：まず、1点目の災害廃棄物の関係について、申し訳ございませんでした。私ども確認をしておりませんでした。こちらのほうについては表現に注意させていただきます。

続きまして、2点目の埋め立ての関係でございます。2019年をもって水銀関係埋め立てなし

ということでは、そのような表現を使ったほうがいいのかと思っております。

あと電池の関係でございます。ここで「あわせて」というようなことでの記載がございましたが、誤解を招くような表現になっている所につきましては訂正させていただきます。ありがとうございます。

○石垣部会長：ほかにご意見等いかがでしょうか。お願いします。

○小泉委員：1番の不燃の資源化なんですけど、突然出てきてるように感じるんですけど、実際、一組でずっとやってるんですよ。ただ、これは板橋区だ、これが練馬区だっていう数字がはっきりしないから今まで数字が取れなかっただけで、実際は、区でやる以上にロットスケールみたいなのが多くて、鉄なんかとか、非鉄なんかも含めてかなりもっと出てるんだと思うんです。市場の規模とかそういうのがあるから、売れる、売れないっていうのも出てくると思うんです。そういう面では、この部分に対して、ほかの区の動向があって区単独でやらなくちゃならないとか、そういうのも出てきちゃうんだと思うんですけど、せっかくやるなら広域で、ロットスケールがあるようにしてやったほうがいいのかなんて部分が。

陶磁器、リサイクルできますとか、今新たにやってるみたいですけど、陶磁器なんてそんないっぱい出てくるもんでもないし、やろうと思えばできるんだろうけど、ほんとにそこでうまくいってるのかなっていうと、難しい部分があると思う。なるべく広域でやったほうがごみの場合にはいいのかなって部分はちょっと思ってるもんですから、ちょっと発言させていただきました。

○新井清掃リサイクル課長：不燃ごみに関しましても、中央防波堤のほうの処理施設のほうでは、鉄ですとか、そういったものにつきましては、再資源化しているというところです。

板橋区におきましても、近隣区も含めて資源化、再資源化というところでは、現状最終処分場の埋め立て等につきましても、延命化というところで必要というところもありまして、各区でやっているところがございます。板橋区におきましても、実際、中央防波堤のほうまで搬入するにあたっての全量搬入では結構経費がかかるというところもございます。そのへんも含めて、近隣の施設で再資源化ということを考えているところです。

○小泉委員：ロットスケールがあったほうが、本当は、鉄なんかでも、ごみじゃないのっていうのが売れたりする部分が。

○石垣部会長：一般論としては、多分、一般の区民の皆さんもそういう意識を持たれるところがあると思いますので、言っていただけるといいかなと思います。ほかにご意見等いかがでしょうか。よろしくお願いします。

○吉田委員：災害廃棄物対策っていうことがあるんですけども、これは、前の地震とか津波で発生したものを、ほかの所で発生したものを引き受けてやったということから始まったのかとは

思うんですけども、具体的に、板橋区内でこういうことがあった場合にどうするかという計画がメインなんですか。それとも、ほかの地区でもこういったものを引き受けるようなかたちでの対策ということなのですか。

○新井清掃リサイクル課長：実際の話としましては、このような大規模災害等が起きた場合、区内の状況も含めまして、どのように対応していかなければいけないかというところでございます。ですから、よそから受け入れるというだけではなく、板橋区のほうとしても、大きな災害が起きたときにはどういうふうに対応していくのか。要はがれきだけでなく、日々の生活の関係のごみもございます。そういったものをどういうふうにしていくのかというような内容で検討を進めていく予定です。

○吉田委員：それは区だけではちょっと無理なので、都も含めた、そういうところの計画っていうことなんですか。

○新井清掃リサイクル課長：板橋区としてどのようにしていくかというのがまず計画の内容になるかと思います。ただし、私どもだけでできるものということではございませんし、東京都でも、計画等も策定されております。そういった内容を含めてどのような方策を取れるのかということ板橋区のほうでも検討していくというものです。

○石垣部会長：東京都のほうで策定された処理計画の中でも、おそらく都のやるべき役割と市町村の役割と明確に分けられていて、その上で、それぞれの区がどういうことをするかということ。また、その調整というのを東京都も含めて、近隣の区であるとか、そういう所とやっていくということだと思うんですけど、まず、区のそういう大枠の方針というか、処理計画ができていますので、これからそれに合ったものを作っていくということだと思います。

第一に、やはり、よそから受け入れるということをメインで考えているのではなくて、自分たちの区であるとか、東京都内でこういうことが起こったときにどうするっていうところを第一に考えているところがあるでしょう。そこがまず最初のスタート地点になっていると思います。ほか、いかがでしょうか。よろしいですか。内容的には、ここは1枚ものだけでしたので、あまり、ほかの資料に比べるとご意見等はないのかもしれませんが。

「水銀含有物の、施策の方向性で、不燃ごみの日に別袋に出すなどして」と、ここはまだ試案というか、例えばということで書かれているのかもしれませんが、環境省さんのほうで2年ぐらい前に水銀廃棄物の回収に関するガイドラインっていうのが出ていますし、そこでかなり細かく、輸送中に水銀を含んだ廃棄物が例えば破損しないような方法とか、かなり具体的に書かれていますので、参考にされてると思いますけども、具体的に書かれてもいいんじゃないかなと思います。安全という面もそうですし、あと、飛散がないようにとか。それから、集めたあとに処理もしやすいようにという格好で書いていますので、参考にされたいと思います。

○新井清掃リサイクル課長：先ほどちょっとお話するのを私のほうも忘れたんですが、収集す

る車につきましても、やはり、割れないような状況をつくるための新しい車種も検討していきたいというふうに思っているところでございます。ありがとうございます。

○石垣部会長：ほか、よろしいですか。それでは、資料 2 のご説明について、質問等についてありがとうございました。それでは、本日 3 つ目の資料、議題としまして用意していただいておりますが、「効果的な PR・情報発信・啓発方策について」というところで、これまでの 5 つの議題について、全体的に、網羅的に含んでいるところもあるかと思いますが、この資料について事務局からご説明、よろしくお願いいたします。

○新井清掃リサイクル課長：それでは、資料 3 をご覧ください。1. 検討の視点でございます。これまで取り上げましたごみの排出抑制やリサイクル、適正処理に関する課題、こちらのほうの解決に向けては、排出者である区民・事業者の皆さんのご理解・ご協力が不可欠である。これがまず第 1 点でございます。

区では、ごみの 3R の推進に向けまして、「板橋かたつむり運動」を展開しております。しかしながら、アンケート調査等では、まだまだ認知度が低いという水準にとどまっております。区からの情報提供や PR につきましても「不十分である」とするご意見が半数近く、45.3%、これは後ほど出てきますが、45.3%というふうな数字を占めてるところでございます。

特に、平成 28 年度から開始しました「紙パック」「紙箱・紙袋・OA 用紙」の回収ですとか、「トレイ・ボトル類」のモデル回収につきましては、より一層の分別協力を呼びかけていく必要があるかなと考えているところでございます。

2 番、PR 啓発方策の現状という所でございます。(1) 本区の取り組みとしましては、普及啓発の主な取り組みとしまして、①以下でございます。①の「かたつむりのおやくそくハンドブック」の全戸配布。資源とごみの分け方・出し方のちらしと、転入者用の冊子を統合しました「かたつむりのおやくそくハンドブック」を 4 年半前、平成 25 年の 1 月に全戸配布したところでございます。以降につきましては、転入者への配布のほか、区役所、清掃事務所、地域センター、区民事務所におきまして配布しているものでございます。

なお、幼児～小学校低学年に向けました「かたつむりのおやくそく」、小学校 4 年生を対象としました「みんなで守ろう！ かたつむりのおやくそくブック」、こちらは冊子、リーフレットの関係でございます。こちらのほうも発行しているところです。

②としまして、環境教育・環境学習の実施でございます。区内の全保育園・幼稚園・小学校を対象としました出前講座を実施しているところでございます。平成 28 年度は 44 回実施したところでございます。リサイクルプラザにおきましては、子ども向け環境教育イベント、施設見学会を実施しているということです。社会人向けの環境学習活動としましては、リサイクルプラザやホームページ等で区民グループ、団体に対する出前講座を行っているほか、エコポリスセンターを拠点とした各種講座やワークショップ等を実施しているところでございます。また、消費者センターとの連携で消費生活講座、消費生活展を通じまして区民、事業者との意見交換を実施しているというものです。

1 枚おめくりください。③としましてイベントにおけるキャンペーン、普及啓発というところ

ろで、毎年 10 月の 3R 推進月間に合わせまして、『広報いたばし』でリサイクル特集を掲載しているものでございます。そのほか、区民まつり等のイベントでブースを出展しているものでございます。

④としまして、ホームページにおける情報提供ということでございます。資源・ごみの分け方、事業系ごみ排出ルールなどの基本的な情報を提供しているほかに、集団回収ですとか、リサイクルプラザの案内、生ごみの減量方法等を情報提供しているものでございます。右側の写真につきましては、プランターでの生ごみたい肥の紹介というものでございます。下に資源・ごみの主な品目別分別一覧ということで、ホームページ等で記載しているものでございます。

⑤としまして、リサイクル推進員との協働でございます。町会・自治会長さんから推薦いただきましたリサイクル推進員を委嘱しているものでございます。任期は 2 年でございまして、今年の 6 月現在で 566 名というものでございます。集積所での適正管理に関する啓発ですとか、不法投棄の連絡、「板橋かたつむり運動」の普及などを行っているものでございます。また、年 2 回実施しています研修会、こういったものを通じましていろいろなアイデア等をホームページで公開しています。

また、単身集合住宅等に対しましては、状況に応じまして管理人さん、不動産業者等と連携しまして分別徹底の指導をしているほかに、外国人世帯の普及啓発方策、英語版・中国語版・韓国語版のリーフレットを作成しています。

3 ページです。(2) としまして、区民の認知状況などでございます。平成 27 年度に実施しました区民アンケート、こちらのほうの「板橋かたつむり運動」の認知度というところでは 23.5%と、約 4 分の 1 をちょっと切るぐらいです。ごみの分け方・出し方に関する情報源としまして多いものは、先ほどもお話ございました「集積所の看板」。「ハンドブック」自体は 18.3%というものでございました。総括的に情報提供・PR 活動につきましては、「情報量・内容ともに不十分である」という回答が 45.3%というふうになっております。半数近くというところがこの数字です。

下の資料につきましては、第 1 回清掃リサイクル部会の資料 4 として提供しているものでございまして、「かたつむり運動をご存じですか」という設問、そのほか、「ごみの分け方・出し方、情報はどこから得ているか」。それと、「減量に関する情報提供・PR 活動をどう思われるか」というところです。

1 枚おめくりいただきまして、4 ページでございます。他区での取り組み等というところでございます。ごみ分別辞典の作成というところで、足立区のほうの例を出させていただいております。足立区では紙類に限定したごみ分別辞典を作成しているというものでございます。また、ホームページ上でもごみ分別辞典を作成し、自治体向けに提供する民間サービス等もあるということで、その画面等を記載してございます。

②としまして、単身者向けパンフレットの作成ということで、目黒区が実施しているものでございます。若者単身者向けにパンフレットを作成して、資源・ごみの分け方やごみのゆくえなどを説明しているものです。

右のページに移ります。③でございます。「資源・ごみ分別カレンダー」の毎年度全戸配布というところで、多摩地域ほかで行っているということです。資源・ごみの収集日、分け方・出

し方を掲載しました「資源・ごみ分別カレンダー」を毎年全国配布するという方針が主流となっているというものです。

④でございます。スマートフォン向け「ごみアプリ」ということで、千代田区ほか6区が行っているものです。資源・ごみの収集日のお知らせ、資源・ごみの分け方・出し方、分別辞典、粗大ごみ処理券の販売店の案内などの情報を提供するスマートフォン向け「ごみアプリ」を導入している事例が増えてきております。23区では千代田区、港区など全部で6区が既に導入しており、江東区、大田区も近く導入予定というふうにお聞きしているところです。

下のほうが、そのアプリを起動したときのスマートフォンの画面ということで、これ千代田区ということで二重橋が出ているのかなというふうに思っているところです。

1枚おめくりください。最後、6ページでございます。ごみ・リサイクルの情報誌の発行ということで、杉並区の事例です。年数回のごみやリサイクルの専門情報誌の発行ということで、全国多くの事例がある中で、こちら、お伝えしているのは杉並区の例ということで、年6回発行しているものです。

大きな3番としまして、考えられる施策の方向性というところで、(1)インターネットを活用した情報提供です。ごみ減量のコツ、分別に迷った際の利用ということで「ごみ分別辞典」の掲載など、ホームページの情報をより充実していく。スマートフォン向け「ごみアプリ」の導入を検討するというところです。

(2)としまして、パンフレット・広報誌の充実。「かたつむりのおやくそくハンドブック」、こちらの一層の充実、それと、なかなかちょっと厳しいところはあるんですが、定期的に全戸配布をしていきたいというふうな内容、そのへんを検討してまいりたいと考えているところです。

(3)としまして、環境教育・環境学習の推進、そのほかイベントの場での活用というところです。出前講座、エコポリスセンターを拠点とした環境学習活動等の強化・継続を行う。区民まつりなどイベントの場を活用して、取り組みのPR、リサイクル体験などを実施していく。

(4)としまして、分別徹底キャンペーンの展開というところで、トレイ・ボトル類、これを全区に拡大いたします。これを機会としまして、リサイクル推進員さんとの協力の下、町会・自治会・集合住宅単位での説明、協力要請を進めていく。また、その際におきましては、トレイ・ボトル類の分別に加えまして、「紙パック」「紙箱・紙袋・OA用紙」、こちらのほうの分別徹底について、重点的なキャンペーンを行っていくというものです。説明は以上です。

○石垣部会長：ありがとうございます。この3つの資料の説明をかなり急いでやっていただいたので、時間がだいぶあります。皆さまからのさまざまなご意見をお伺いする時間があると思いますので、挙手にてご質問、ご意見等ありましたらお願いします。

○吉田委員：ハンドブックですが、これは25年1月に配布して、そのあと配布がないんですよね。一つは、ハンドブックだとどこかにしまい込んで、そのままになってしまいか、それから、単身者とか出入りがあった場合に、配ってなければわからないということもあると思うんですよね。



ちょっと今考えたのは、私の所というのはハンドブックじゃなくて、カレンダーがあって、1月、2月とこうなっていると。あと、一番後ろに分別が書いてあって、それは毎年配布があるわけです。そうすると、カレンダーですと朝見て、今日は何出すんだということがわかるのと、後ろを見ると分別がわかる。

25年からそのまま渡してないというのと、多分、どこかに行っちゃってわかんないんじゃないかなと思うんで、なるべくなら、年1回ぐらいは何かのかたちの配布のほうの方がわかりやすいんじゃないかなと思うんですけれども。以上です。

○石垣部会長：いかがでしょうか。お願いします。

○新井清掃リサイクル課長：今ご意見頂きましたとおりに、私どものほうもそのようなことでは考えているところです。なるべくそれが実現できるように頑張っていきたいなと思っていてところでございます。また、後段のほうでもお話しさせていただきました「ごみアプリ」の関係です。スマートフォン、皆さま、もうお持ちだと思います。残念ながら私は、スマートフォンはまだ触ったことがないんですが、アプリ等でそういったものは網羅できるのかなと思っていてところの半面、やはり、私みたいに持っていない人間には、じゃあ、どうするのかというような話もございます。できる限り全戸配布等に向けて、私どもも頑張っていきたいなと思っていてところでです。

○手島委員：今、吉田委員のご意見に全く賛成なんですけれども、結局、インターネットを利用したってことですけど、やっぱりある程度高齢になると、携帯電話でかけて受けるだけが精いっぱいという方が多いわけです。そういう方たちは、お金はかかりますけども収集体制もかわることがあるでしょうから「かたつむりのおやくそく」みたいなものを、少し大きめの字で書いていただけるといいのではないかなということです。結局、インターネットで見るという方は、どのぐらいのパーセントいらっしゃるかわかりませんが、そのへんのところのご配慮をいただきたい。

もう一点は、私、前から何回も申し上げてますけれども、集積場所にもうちょっと細かに、「何曜日はこういうもので」ということを、大ざっぱじゃなくて、もうちょっと細かに書いていただくと、「かたつむりのおやくそく」を持ってない方もある程度ごみの収集場所に持ってきたときの認知度を高められるのではなかろうかと。今あるのは非常に大ざっぱなんです。ですから、もうちょっとそのへんのところを細かに書いたのを、これもちょうとお金かかることですが、そういうのにしていただけるとよろしいかなと。そうすると、単に知らないから捨てるっていう方が減ると思います。

○新井清掃リサイクル課長：ほんとにアプリだけでは難しいというのは十分認識しているところでございます。やはり、紙ベースでお知らせするというのも重要であるということとは変わりないのかなと思っていてところで。また、少し大きめの文字というところもお話しになりました、ありがとうございます。今後、私どものほうも鋭意努力していきたいというふうに思っ

いるところです。

2 点目のほうの、集積所でのお話でございます。看板等に細かく記載のほうをというお話も頂いているところでございますが、あまり書いてしまいますと文字が、先ほどの逆になりまして、字が小さくなってしまいまして、なかなか厳しいのかなという面もございます。併せまして、電話番号等は記載がございますので、もし、何か疑問点等があれば、お問い合わせいただきたいというのでばっと目につくようなかたちの記載をしているところです。

○手島委員：今、私が申し上げたかったのは、今の記載では不十分だということを申し上げたかったんです。改良をお願いします。

○依田委員：商店街には、曜日等の出し方について、大きい黄色いものが貼ってありましたよね。でも、今はほとんどそういうものはないです。何曜日に可燃ごみとか、そういうのが全然なくて、外国人がいるアパートがあるんですね。そうすると、曜日が違うのに出していることもある。

それと、私、今、一番気になってるのは、私のうちのすぐ近くに、もういつもすごいごみが散らかっちゃってるんですね。生ごみがもうこぼれてるっていうか、袋から出ちゃってる。そこは歩道なんですね。自転車も通るし、人間も通るのに、もういつも汚いんですよ。ああいう所にも、何日にごみ、何曜日に何のごみってちゃんと書いてあれば、もしかしたらああいうふうに捨てないんじゃないかなと。いつもものすごい汚くて、それも散乱しちやってるんですね。

だから、やっぱり、何曜日にはこういうごみとか、それだけでもいいですから、細かいことは要らないんですけど、そういうものをゴミ集積所にやっぱり貼って。紙じゃなくて、プラスチックか何かでそういうふうにやっておけばいいんじゃないかなって。それで、そこを私いつも見るんですけど、何にもそういうものが書いてなくて、ほんとに汚いんですね。

○新井清掃リサイクル課長：今、お話、外国人の方が曜日も何も関係なく捨てるというようなお話がございました。看板等に全部記載できれば一番いいところでございます。先ほど手島委員のほうからもお話しいただきました。今現在のものでは不足しているというところもございました。私ども、そのへんを踏まえてちょっと検討していきたいと思うところですが、それぞれの言語を書くとすると2倍、3倍になってしまいます。英語版・中国語版・韓国語版というようものになるかなと思っていますところ。

今現在、看板の話なんですけど、もし、実際そういうようなことがございましたら、清掃事務所にご連絡いただければ、「ふれあい指導班」というのがおります。外国語版のパンフレット等も用意してございますので、そちらを持ってまいりまして、近隣の方、外国人の方等にも直接お会いできればお話しさせていただきますし、何かしらのアクションを起こしていきたいというふうに思うところです。

それと、生ごみ関係につきましても、ごみ出しルールが駄目ということであれば、「ふれあい指導班」が行って、今現在はその都度の対症療法みたいなかたちになってしまいますが、少しでも周知しまして覚えていただければと思っていますところ。

○小泉委員：啓蒙のことっていろいろやり方があると思います。手島委員の言うのもあるし、依田委員の言うのもあるんだろうと、いろんなお金のかけ方によってかなり違ってきている部分もあるんだと思います。どこまでやっていくかっていう部分も考えなくちゃいけない部分だと思っています。

ただ、板橋区は、私がお世辞で言うわけじゃないんですけど、年に一遍か二遍ぐらい、「かたつむりのおやくそく」も区報にも、出てるのは事実だと思うんです。23区で一番、区報の発行回数も確か一番多く情報発信はしてるんだと思うんです。あとは、受け取る側がどう受け取るかっていう部分もあると思うんです。アプリは、今言われた外国人対策なんていうのはかなりいいんじゃないのかなと思います。外国の方は、スマートフォンを使っている方が多いと思う。「板橋区でこのごみは何ごみ」みたいなのが簡単に母国語で調べられたら良いと思う。

何曜日にごみが回収に来ますなんていうのはそんな難しい話ではないんで、曜日よりは品目みたいなのを、韓国語とか、中国語とか、何語まであるのかわからないけど、そういうのを使ってやったほうがいいのかなんて思います。

毎年毎年、何曜日に何が回収に来ますっていうのも、確かに便利は便利なんだけど、引っ越しちゃえば置いてってくれればいいけど、違ったりする部分もあるんで、やっぱり不動産業者や、管理会社と組んで、外国人とは限らず「こういうのがあるんだよ」っていうのを説明してくれみたいな話をしてやったほうがいいのかなんていう部分があります。お金があれば年に一遍でも全戸配布するってのも手なのかもしれないですけど、ただ、それだって日本語が中心で、全部の外国語が入れるっていうわけじゃないと思う。

逆に言えば、スマートフォンは日本人も使うけど、外国人の方にもやりやすいようなかたちでやっていったほうが、費用対効果で合わないのかもしれないけど、町はきれいになるのかなっていうのが話を聞いてて思った部分です。

○手島委員：だから、日本人向けと外国人向けと、今の小泉委員がおっしゃったように、外国人向けっていうのはスマートフォンはみんな使えるわけですよ。そうすると、不動産屋さんが最初に貸すときに、「こうです、ああです」っていうこと、それで、これは何曜日ですということまで教えなかったら、曜日関係なく出しますから。それを言っても、場合によっては、1室にいっぱい入ってくるわけですよ。ですから、やっぱりスマートフォンで見られるようにしてあげれば、ごみの出し方は、徹底する可能性は、今よりはあるっていうように思います。国に関係なくできない人もかなりいるということをご認識の上、対応していただけたらというふうに思っております。

○小泉委員：今すごく一生懸命やられてて、「ふれあい指導」なんかも結構やってるじゃないですか。やっぱり、分別等ができないところは行って指導するしかないと思うんですよ。何が出たって読まなきゃ、見なきゃ周知しないわけなんですから。「ふれあい指導」もすごくやってるんですけど、そこで解決していく。外国人も結局は、最後はそんなのを入れたって、行って話せばいいと思う。ただ、夜しかいないとかいろいろあるかもしれないけど、そういう地道な活動でやっていくしかないんじゃないのかなと。

一足飛びに啓発でいいのって、金かけりゃいくらでもできると思うんです。予算の中でうまくどうやっていくかっていう中ではそういう部分なのかなっていうのがあって。かなり結構板橋区は発信してるような気がするんですよ。駅にも区報が置いてあったりする部分もある。

○依田委員：大家さんに注意したんですけど、大家さんは、外国人の入居者にいろいろ言うと思ってもらえないから、言ってもらえないんです。大家さんが注意してくれなきゃ、よそのうちの前にごみがいっぱいになっちゃうんで。それでも大家さんは全然関与してくれないんです。

○小泉委員：そういう意味で、初めての所に来て、スマートフォンで「板橋区のごみの出し方」みたいなのを調べない方はいないと思うんです。

○石垣部会長：外国人の方は住民登録で区役所へ来るので、区役所でもそういう外国人向けのメニューが今もあるんだと思うんですけれども、もう少し、例えばアプリがあるのであればその時点でご紹介するとか。目の前でダウンロードしてもらうまでは難しいと思いますが。例えば今なら2次元バーコードみたいなものを、それこそ集積所に置いとけば、みんなそれをダウンロードしますので、簡単なことは簡単なんですよ。

○新井清掃リサイクル課長：板橋区におきましても、ごみのアプリ関係、こちらのほうを導入したいということで私どものほうも考えているところです。ただ、先ほど来お話しただいております、予算の関係等もございまして、今ここで「すぐに導入できます」ということが言えないのが歯がゆいところでございます。来年度に向けたかたちでは、そのようなことを考えていきたいと思っています。

また、アプリにつきましても、今ちょっとお話ございましたように、私どものほうも、英語・中国語・韓国語ということで、日本語を含めて4カ国語で内容を充実していきたいというふうに思っております。この内容につきましては、5ページ等でも触れさせていただいております。資源・ごみの分け方・出し方、分別辞典、粗大ごみの処理券の販売店等、ほかに、粗大ごみの場合、申し込み等が必要になってきます。アプリを起動したままそちらのほうの接続できるようなこととかいろいろなことを考えているところです。それと、やはり忘れてはいけないというところでは、アプリだけに頼るということではなく、きちんとそれ以外の部分ということも充実していかなければいけないのかなと思っています。

また、お話ございました住民登録の関係ということでは、区役所の窓口等においていただいたときには、「ハンドブック」等はお渡しするようなのはもちろんやっているところです。外国語版につきましても同様にやっていきたいというふうに思っているのと同時に、これもちょっとできるかどうかかわからないんですが、先ほど来出ています不動産屋さんの関係ですとか、そういった所にも契約等でお越しになった方々にもこの情報発信のための冊子等を渡せるような方策が取れないかと、いろいろちょっと考えてまいりたいというふうに思っているところです。

○石垣部会長：テクニカルな方法論で言えば、ほんとにいろいろな対策ができると思いますし、それはもうお金と労力との兼ね合いだと思いますので、できたらお金をかけずにできるようなことっていうと、今、板橋区さんのホームページのほうからも「かたつむりのおやくそく」は見れるんですよね、ホームページを経由して。いわゆる PDF ってかたちで見れるんですけども、それが非常に見にくいです。例えば、自分の知りたい情報がどこに載ってるかなっていうのは、目次はあるんですけども、その目次をクリックしてもそこに行くようにはなっていない。その下に、それとは別で PDF のページが例えば 1～4 ページ、7～10 ページみたいな感じでサイズで分けておいたんですよね。

そうすると、自分の知りたいページがどこにある、それは何ページに載ってるっていうのを両方見て初めてそこに行くようになってる。ページのサイズで切れてるので、結構、必要のない情報も入ってたりとか、自分の必要な情報が途中で切れてたりとか、それは非常にもったいないので、この書いてあることは非常に素晴らしいと思うんですよね。なので、できたら、簡単にそこにたどり着けるようなアクセス性を上げるだけでだいぶ良くなると思う。

もちろん、そこに誘導するようないろんな方法というのもあると思うんですけど、そのほうがテクニカルなものになると思います。それは多分、そんなにお金かけずにできるんじゃないか。PDF の配置を、ホームページ上の配置を変えるだけでできるんじゃないかなと思いますので、ちょっと検討していただきたいと思います。

○新井清掃リサイクル課長：ありがとうございます。

○石垣部会長：あと、せっかく PDF なので、ページ内のリンクが貼ってあると、資源ごみはどこだ、どんなものが入るってそこをぼちっとしたらすぐそのページに飛べばいいんですけど、そういうリンクも今、貼られてないです。ちょっと細かいことですが。ほかはいかがでしょうか。

○竹内委員：検討の視点の比較の中の最後の、特に 28 年度から紙パックうんぬんということを書いてありますが、トレイ・ボトル類の回収については、より一層の分別協力を呼びかける必要がありますということでもって、28 年度からモデル回収をやっていらっしゃるんですよね。それで、6 ページの最後に、「トレイ・ボトル類回収の全区拡大の機会を利用して」って、この「機会」、これはいつから。

○新井清掃リサイクル課長：トレイ・ボトルにつきましては拠点のほうでございまして。集積所での回収は一部でモデル回収を実施しています。今後そちらのほうに広げていくための検証等を今行っているという状況でございます。

○竹内委員：集積所でやるのであれば、もうそれこそ 1 年以上かけて周知をしたほうがよろしいんじゃないかと。前回の会議に出まして、そのあと 50 代の人と 4 人ほどお会いしたんです。その方たちは自分のマンションを、親御さんからマンションを預かって管理してる方なん

ですが、たまたま 4 人組だったんですが、「えー、そんなこと始めるの。豊島区と同じになっちゃうね。今までは区の、焼却能力があるから全部まとめて燃えるごみで出したのに、これを今度分けるとなったら大変だ。一回楽しちゃったらもうどうしようもないね」っていう話を聞いたもんですから、これを始めるにあたっては、やっぱり長時間、時間をかけて、まず周知をさせてそれからでないと、いきなりやると、そんないい結果は出ないんじゃないかと思うんで、それをちょっと心配しました。

○石垣部会長：貴重なご意見、ありがとうございます。

○新井清掃リサイクル課長：トレイ・ボトル類につきましては 220 か所、区内の集積所は全部で 2 万 2,000 か所あるわけですけど、その中の 10%程度なんですけど、220 か所でモデル回収を行っているところです。そちらのほうにつきましては、今後も引き続き検証を行っていききたいというふうに思うのと同時に、もし、そのような大きく変わるような状況がございましたら、各支部等に伺いまして説明等は行っていかなければいけないのかなというふうに思っているところです。

○竹内委員：一回周知しただけでだいたい終わっちゃってますよね。今日もたまたま出た、『町連』の、例えば「宴会五箇条」なんてありますよね。これについても、これしか見たことないです。ほかの場所でもって一回も見ません。例えば宴会場の隅に貼ってあるとか、そういうものがないんですよ。皆さん、どこかほかで見たことがありますか。出しっぱなしで終わってるような感じがする。もう少し、例えば賀詞交歓会の所の会場の隅に貼るとか、そういうことをやると、それなりの人がみえてますので、効果があるんじゃないかなと思ってます。そんなことを感じました。

○新井清掃リサイクル課長：ありがとうございます。まず一点としましては、今後、協力店ですか、お店のほうの協力をいただくというのがまず一点あるのかなというふうに思うのと、ありがとうございます、今お話しいただきましたいろんな所で目に触れるような方策等は取っていききたいと思いますし、「何だこれ」っていうふうにちょっと思っただけだけでも、目を引くような何かしらあって、ちょっと立って読んでいただけるような、そのようなものを考えていきたいなというふうに思います。ありがとうございます。

○石垣部会長：ほかにいかがでしょうか。

○手島委員：すみません。先ほどのごみの集積所に細かにいろいろなのを、「かたつむりのおやくそく」みたいなああいうのと聞いたら、それは場所を取るからということですけど、だいたい集積所ってわりあいと広いですよ。

○小泉委員：電柱が多いと思うんですよ。

○手島委員：ですから、もし電柱が多かったら、電柱じゃない場所にでも、置ける場所にでもちょっと細かに書いたのを置いてくださると、かなり、捨てる人にはいいかしらという感じなんですけど。

○新井清掃リサイクル課長：ありがとうございます。今お話しいただきましたように、確かにネットを広げているとか、いろんなかたちで幅はあるかと思います。掲示物の関係につきましては、やはり、皆さま方に集積所を設置するにあたってご協力いただきまして、おうちの門の隣等もごさいます。そうしますと、通常、いつもずっと恒常的に貼っておくとか、そういったものがない場合もごさいます。何かしらの方策は考えなければいけないと思うんですが、やはり、個人のお宅の塀を使うとか、そういうようなことで掲出をさせていただいている場合もごさいますので、そのへんを踏まえた上で次の方策ということでは考えていきたいというふうに思うところです。

○手島委員：よそさまのお宅にご迷惑かけちゃいけませんから、場所によってそういうものをお作りになるっていうことは、一応は目に留まりますよね。そういうことを申し上げたいと思います。

○新井清掃リサイクル課長：ありがとうございます。

○石垣部会長：アプリを開発することになったりしたら、多分、話が出ると思うんですけど、いわゆるピクトグラムのようなものですよ。例えば男子トイレ・女子トイレっていったら一目見たらわかるわけですよ。あんな感じで、中国語・韓国語で全部書く必要はないので、その絵を見たら、あ、ここはびんだな、缶だな、今日はこれ駄目なんだなっていうことはわかるような工夫というのはできると思うんです。それでも、区で考えてくださいっていうのは無理だと思うので、やっぱりそれもデザインの所に出して考えてもらわないといけないと思うんですけども、いくらでも工夫はできるところだと思いますので、やはり、集積所にぱっと行ってすぐわかるような情報があるっていうのは、非常に有効だと思います。ぜひご検討いただければと思います。

いくつかご指摘いただいておりますが、考えられる施策の方向性というところで言いますと、環境教育・環境学習・イベントっていうところはまだどなたもおっしゃっていただけてないですが、これは、よく頑張ってるっていうお話がいくつかあったので、それでよろしいですか。もっとこうしなさいっていうところは。いかがでしょう。

○依田委員：区民まつりには出ておりますけれど、区のほうで最初に段ボールは何枚要るのかと、それをちゃんと報告しとくと、そこへ持って行けば捨てられますし、ごみはちゃんとグリーンホールの前に捨てられますので、そういうふうに。缶とかそういうのは女性部の方のうちへ持ってって捨てることにしていますので、区民まつりのときは、われわれはもう何年もやっていますからごみはちゃんときちっと処理しております。

○手島委員：すみません、いいですか。(3)の環境教育の所なんですけど、例えば小学校の児童ですと、6年間でだいたい何回ぐらいこの出前講座とか、エコポリスセンターを拠点とした環境学習活動っていう、この「強化・継続」なんですけど、6年間で児童が何回こういう所に行きますか。

○新井清掃リサイクル課長：環境学習関係を行うのが6年間のうちの4年生のときに行いますので、4年生のときを中心にこういった出前講座ですとか、見学に来ていただくとか、そういうふうな状況でございますので、1〜6年まで通してやるということでは、すみません、今現在では違うような状況でございます。

○手島委員：私が申し上げたいのは、やっぱり小学校の時代にそれがもう常に授業の中に、1年の間で2回で3回でもあれば、子どもたちはそれがもう頭の中にインプットされてるわけですよ。それが大人になったときに大事なのではなかろうかと思ひまして、ちょっと質問させていただきました。

○新井清掃リサイクル課長：ありがとうございます。実は、小学校全校ということでの出前講座というのは今現在できない状況ですので、学校もピックアップしてるような状況で、各学校の希望を聞きながら実施しているところでございます。なお、その前段としまして、「かたつむりのおやくそく」というところでの体操関係でございますが、それにつきましては、幼稚園・保育園等でも実際行っておりまして、分別ですとか、リサイクルの関係ということではお話ししているというような状況です。小学校の4年生になりますと、こういった環境の問題ということでの、リサイクル等を取り上げるというような状況になっているところです。

○手島委員：私、前もちょっと類似したような質問をさせていただいた記憶があるんですけど、子どもたちに教えるだけではなくて、実際に子どもたちに、教える時間がもしないっていうのであれば、1年のときからごみを捨てさせればいいわけですよ、教室のいろいろなものの。そうすると印象に残りますよね。例えば、給食の残ったのは計っていろんなことに役立ててるということは伺ったことがあるんですけども、やっぱり現実には子どもたちが捨てるっていう作業を、お当番でもあれば、授業で割かなくても、子どもたちには印象に残るのではなかろうかというようにちょっと思いました。

○新井清掃リサイクル課長：ありがとうございます。学校でも、生活の中で実際一番身近なものということの取り上げ方というのもあるかと思います。そのへんにつきましては教育委員会のほうともいろいろ協議していかなければいけないのかなというふうに思いますし、できる内容につきましては、実際、実現していきたいというふうに思うところでございます。

確かに1年から6年までいて、途中の4年生のところでは取り上げるっていうよりかは、やはり毎年毎年ということでの生活に密着した取り上げ方というのが必要なかなとは思ひます。教育委員会のほうとも相談していきながらやっていきたいと思ひます。ありがとうございます。



○手島委員：よろしくお願いします。

○石垣部会長：学校の先生であるとか、教育委員会の方との連携、相談というのは必ずしなきゃいけない。まず現場の先生とかから、いわゆるごみとか環境に対して、小学生はどういう態度なのかというところから聞いていけば、現場の方は非常に繊細にというか、敏感に感じていらっしゃる場所もあると思いますので、そこが不足してるよってという意見であれば、やはりそういうことを採用していくといいと思います。わかっててそれが反映されないというのであれば、また違うことが必要なんだと思います。

○吉田委員：リサイクル推進員の所、566名っていうと多いのか少ないのかちょっとわからないんですけど、集積所のある町内の中で、不燃ごみなんかだと、ペットボトルを入れるかごとか箱を組み立ててするような担当の人が、年、1人1軒っていうか、代わるようなかたちでやってるんですけど、もうちょっとこの推進員は、集積所のある所に1人ぐらい推進員にしてしまっ、出し方が悪いとか何とかの指導できるようなかたちをさせるようなかたちのほうがいいんじゃないかと。出して悪いものを置いてあった場合なんかに、そのままにしておく場合があるじゃないですか。それだと、その町内の中で、どこが出したかだいたいわかるようなかたちがあると思いますから、推進員にしとけば注意ができるんじゃないかなと。やっぱり何もなくて注意するのもしないかなとちょっと言いにくいんじゃないかなと思うんで、そういうかたちを利用したらどうかなと思うんですけど。

○新井清掃リサイクル課長：リサイクル推進員でございます。リサイクル推進員につきましては、各町会・自治会長の皆さま方からご推薦いただきまして、私どものほうで委嘱しているところです。だいたい1町会2〜3名ぐらいの推薦をいただいているところです。集積所の数は先ほど申し上げましたように2万2,000か所ございまして、その集積所ごとというのはやはりなかなか難しいのかなというふうに思うところと、あと、集積所につきましても、やはり、それぞれ皆さま方、近隣の方と協議しながら場所を決めていただいたりとか、管理をお願いしているところです。

今お話いただきましたように、注意ですとか、そういったところでトラブルが起きない範囲でお願いしているような状況でございまして、明らかにものが、缶ですとか、びんですとかが入ったようなかたちの可燃ごみですとか、そういうのは、「ちょっと違うんじゃないですか」といった話はあるかと思うんですが、中を開けてですとか、そういったのは一切やらないようにお願いしているところです。研修会等でもそのようにお話しさせていただいているところです。

町会ごとに活動等があった場合に、「こういうことをやってますよ」とか、そういうのを推進員さんに今現在お願いしているところでございます。もちろん、集積所にお1人ずつそういう方がいらっしゃればほんとに一番いいのかなというふうには思っているところですが、皆さま方のトラブルというお話とかっていうのもありますので、そのへんは十分注意していただいているというのが現状です。

○石垣部会長：町会では対応できるところは推進員にお願いして、それ以外のところでそういうトラブルがあれば、先ほど来おっしゃっているような清掃事務所のほうに連絡をとということが最初の対応ですね。ほかによろしいでしょうか。

○田坂委員：よろしいですか。分別徹底キャンペーンの展開というのがあるんですが、トレイは、とにかくこれはどういうふう再生されるのかわかりませんが、ボトルにしても、ガラスのびんですと、これは洗うだけなんだろうけど、プラスチックのペットボトルなんかは、あれは破碎して溶解してってことになっちゃうんだと思うんですが、そうすると絶対品質は劣ると思うし、お金かけて。この前に見た覚えがあるんですが、このようなあれは分別しなきゃならないのかどうかと疑問なんですけど。特にトレイについては、いろんな汚物くっ付いてますしね。あれ、みんな発泡スチロールですから、実質いくらもないんですよ。

○石垣部会長：田坂さん、すみません。その件については前回、第3回のときにご発言があって、環境課長さんのほうからその件も含めて検討しますということがあったので、多分、次回、その回答というか、それを含めた取りまとめが出るんだと思っています。関係するところは、私も今日はどうしようかなと思ったんですけども、前回、どういうふうに分けていくのがいいのか、どういうふうに処理していくのがいいのかというところを包括的に考えて検討しましょうというお話があったと思いますので、それでよろしいんじゃないかなと。

○田坂委員：次の会に持ち越しということですね。わかりました。

○石垣部会長：ありがとうございます。順番で議題を話してますので、どうしても2回に分かれたときにうまく連携しないこともあったりして、ちょっと今日も議論がいくつか重複したところもあったと思うんですが、それなりに多くの時間を割いて皆さんのご意見を頂くことができましたんじゃないかなと思います。

多くの意見を頂くことが今日できましたので、ぜひこれを参考にしていただいて、今後の計画、次回、中間のまとめ案というのを取りまとめていただくことになると思いますので、その作業を進めていただければと思います。最後に事務局のほうにお返しいたします。

### 3. 閉会

○新井部清掃リサイクル課長：ありがとうございました。本日の審議内容につきまして、また何かお考え等がございましたら、ご意見も含めて、来週7月10日月曜日までに事務局までご連絡いただければと思っていますところ。頂きましたご意見等につきましては調整させていただきまして、次回の部会で報告させていただきたいなと思っていますところ。

また、第4回清掃・リサイクル部会につきましては、8月9日水曜日14時から開催させていただきます。場所等の詳細については、わかり次第ご連絡を差し上げたいと思います。第4回につきましては、今、部会長からお話ございました、中間のまとめ案についてご審議いた

だく予定です。

私のからは以上です。それでは、これをもちまして、第3回清掃・リサイクル部会を閉会させていただきますと存じます。どうもありがとうございました。

以上